

鶴見区区政会議 平成28年度第2回こども教育部会

1 日時

平成28年9月28日（水） 19時00分～20時28分

2 場所

鶴見区役所 4階 403会議室

3 出席者

（委員）

西岡部会長、真鍋副部会長、木本委員、猿渡委員、前川委員、宮田委員

（区役所）

萩副区長、田中こども・教育担当課長、丸井こども・教育担当課長代理、

杉本地域活動支援課担当係長、貴田子育て支援担当課長代理、

日下保健福祉課担当係長、藤本保健福祉課担当係長、野坂保健福祉課担当係長

4 議題

1. 平成29年度鶴見区の取組みの方向性について

5 議事

開会 19時00分

○日下保健福祉課担当係長 定刻になりましたので、始めさせていただきます。
います。

ただいまから鶴見区区政会議、平成28年度第2回こども教育部会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、保健福祉課担当係長の日下でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、萩副区長からごあいさつを申し上げます。

○萩副区長 皆様、こんばんは。

隣で地域コミュニティ、保健福祉部会をやっていますので、区長と私と分かれて、私からあいさつさせていただきます。

本日は足元の悪い中、こども教育部会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

本日は、平成28年度の鶴見区の実践と平成29年度に鶴見区が行います実践を中心にご意見を頂戴したいと思っています。

特に、平成29年度の実践は、皆さんのいろいろなアイデアをいただきながら進めたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○日下保健福祉課担当係長 それでは、これより議事進行を西岡部会長にお願いいたします。

部会長、よろしくお願いいたします。

○西岡部会長 西岡です。本日は皆さん方お忙しい中、また雨の中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

今年度の第2回目の部会になりますが、どうかよろしくお願いいたします。

それでは、まず議題1の平成29年度鶴見区の実践の方向性について、事務局から説明をお願いいたします。

○日下保健福祉課担当係長 それではまず、私のほうから説明させていただきます。

まず、平成29年度の実践、方向性を説明させていただく前に、平成28年度の実践及び実践状況についてご説明をさせていただきます。その上で平成29年度の実践に対するご意見、アイデアをお伺いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

資料1 平成28年度鶴見区の実践、1枚目めくっていただきまして、裏面、経営課題3 次世代育成に向けたまちづくり。

戦略3-1 としまして、安心して子育てできる環境づくり。

めざす状態としましては、おおむね3年から5年間を念頭に設定いたしており、地

域ぐるみで安心して子どもを生み、育てられる環境の整備が進んでいると感じる区民の割合を増やすこととしています。

戦略としましては、地域の関係団体・関係機関と連携し、区民が安心して子どもを生み、育てられる環境づくりを進めていくとさせていただきます。

そのうち、子育て支援の充実に関しましてですけれども、関係機関等と連携しまして、待機児童の解消、子育て層の交流の場の設定及び児童虐待防止など、子育て支援に取り組むという形で行ってきております。

今年度につきましては、「愛Loveこどもフェスタ」の開催を1回、第12回目としまして5月20日金曜日に開催いたしました。

次に、「つるみっ子ルーム」の利用率80%以上。

地域や関係者等と連携した児童虐待防止啓発活動の実施としまして、年間20回を予定しております。そのうち4回、既に実施いたしております。

それから、児童虐待防止学習会・講演会等の開催としまして、3回。11月以降に開催の予定でございます。

関係局との保育ニーズ検討会議、2回を考えております。

保育環境の充実に向けた働きかけとしまして、26保育所に働きかけを行っているところでございます。

下の写真ですけれども、一番左側が「愛Loveこどもフェスタ」で、舞台上でちょうど行っている写真でございます。真ん中の写真につきましては、「つるみっ子ルーム」事業としまして、区役所の3階に「つるみっ子ルーム」という部屋、子どもさんとお母さん、保護者の方が一緒になって遊んでいただける部屋をつくっております。その部屋の様子でございます。

一番右側としましては、保育所の待機児童数等のグラフになっております。

以上が今年度の主な取組みでございます。それを念頭に入れていただきながら、資料2 平成29年度鶴見区の主な取組みの方向性を見ていただきますようお願いし

ます。

1枚めくっていただきまして、裏面。

まず、現状でございますけれども、年少人口、こちらは15歳未満の人口になりますが、その割合が高く、安心して子どもを生み、育てられる子育て・保育環境の整備が重要であるが、現状では子育てに対する不安感・負担感が見られ、児童虐待の相談件数も多く、また保育ニーズも高い現状でございます。

課題としましては、安心して子どもを生み、育てられる環境づくりには、地域・関係機関との連携を推進する必要があると考えております。

また、児童虐待防止に向け、関係機関と連携を図るとともに、啓発活動を推進する必要があると考えております。

もう1つ、保育ニーズの高まりに対しましては、関係局と連携し、保育環境の充実に努める必要があると考えております。

次のページでございます。

平成29年度の取組みの方向性として、安心して子育てできる環境づくりの中では、まず子育て層の交流の場の設定など、子育て支援施策を実施する。

次に、関係先と連携し、児童虐待ケースに対応するとともに、児童虐待の早期発見と防止のため、啓発活動に取り組む。

続きまして、保育ニーズを勘案し、関係局と連携を図りながら、保育環境の整備に努め、待機児童の解消に取り組む。

この方向性をもとに、平成29年度考えられる取組みとして、安心して子育てできる環境づくりの中では、まず「愛Loveこどもフェスタ」の開催、「つるみっ子ルーム」の利用率の向上、地域団体等と連携した、年間を通じた児童虐待防止啓発活動の実施、児童虐待防止のための講演会等の開催、関係局との保育ニーズ検討会の実施、保育環境の充実に向けた保育施設への働きかけを実施するということを考えております。

中でも、皆様にぜひともアイデアをいただきたいのは、区でできる待機児童対策のアイデアをぜひとも教えていただけたらと思っております。用地の確保ですとか、人の確保を含めまして、何かご意見をいただけたら幸いかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○杉本地域活動支援担当係長　　続きまして、戦略3-2 子ども・青少年の健全育成を説明させていただきます。資料1の平成28年度鶴見区の主な取組みです。

戦略3-2 子ども・青少年の健全育成のめざす状態としましては、家庭、学校、地域住民が一体となって、社会性を身につけ、心身ともに健全に育つ青少年の割合を増やす。

戦略としましては、鶴見区青少年育成推進会議を中心として、各種イベントに参加する青少年や保護者を通じて広く地域・家庭との連携を進め、青少年の健全育成に向けて取り組む。

また、次世代を担う子ども・青少年が、将来の夢を膨らませ、世界に目を向けるきっかけとなる取組みを図るとしております。

地域と連携した青少年の健全育成の取組みに関しまして、歌やダンス等の活動をしている区内高校生や青少年グループに、日ごろの活動成果を発表する機会を提供するとともに、関係機関と連携した非行防止啓発活動等を実施するなど、青少年健全育成の取組みを推進する。

具体的な取組みとしましては、高校軽音ライブクリーンプロジェクト、こちらは5月1日に開催しました。

それから、青少年カーニバル、こちらは10月10日月曜日の祝日に開催を予定しております。

それから、青少年健全育成鶴見区民大会は7月3日に開催いたしました。

こども環境ととのえ隊としまして、鶴見緑地公園内の夜間巡視。こちらは8月9日に実施しました。

下の写真は、左から順に、高校軽音ライブクリーンプロジェクト、こども環境ととのえ隊、青少年カーニバルの写真を掲載しております。

次に、戦略3-3 教育支援ですが、めざす状態としまして、学校や地域、保護者の教育行政に関するニーズを把握し、学校と連携した取組みができている。

戦略としましては、学校や地域、保護者のニーズや意向を把握して効果的な学校の支援を行えるような取組みを進める。

次世代を担う子ども・青少年が将来の夢を膨らませ、世界に目を向けるきっかけとなる取組みを図るとしております。

具体的な取組みとしましては、学校、地域、保護者の教育に対するニーズを把握するための仕組みとして、区政会議部会や教育行政連絡会、学校協議会を通じた情報共有を行うということで、区政会議の部会を3回開催予定しております。教育行政連絡会、こちらは学校と区役所による連携調整、協議の場としまして、小学校、中学校、各学期1回開催を予定しております。

また、学校協議会を市立幼稚園、小・中・高校の20校園にて各学期1回開催を予定しております。

次に、異文化・英語に親しむということで、小学生が異文化にふれる機会の提供や中学生を対象に、英語に親しみ、外国に対する興味や関心を高める機会を提供するというので、中学生と留学生の英語による交流事業を5回。こちらは4月、5月、6月、それから8月は2回開催しました。

異文化交流事業として、こちらは小学生対象で4回を予定しております。8月に実施しました。それから10月、12月、2月に開催予定しております。

右の写真は、左から中学生英語交流 In Tsurumi、つるみで異文化交流の写真に掲載しております。

次に、学校と社会を結ぶということで、区内企業、経営者、スポーツ選手の方々の持つ知識や経験談を区内小中高校生に伝えてもらうということで、青少年「夢・未

来」講座の開催 10校、延べ20回を予定しており、現在8校、延べ20回を実施しております。

下の写真は、「ミズノ」走り方教室と牛乳石鹸の手洗い授業を掲載しております。

続きまして、資料2の平成29年度の主な取組みの方向性ですが、まず現状は、子ども・青少年の健全な育成に向けた取組みが重要となっていると考えており、課題としましては、次世代を担う子ども・青少年が将来への夢を膨らませ、健やかに成長できるよう、家庭、学校、地域が連携を図り、継続的に取り組む必要があると考えております。

次のページです。平成29年度の取組みの方向性としまして、教育支援は、保護者や地域の意見やニーズを聞きながら、区の特性や地域の実情に即した教育活動の展開や学校への支援を図る。

学校ニーズに沿ったきめ細やかな支援を行っていくために、学校との情報共有や意見交換を行い、必要な支援を行っていく。

関係機関と連携を図り、小・中・高校生の興味がある体験事業の機会を提供していくことで、学校と社会の結びつきを充実させていくということで、平成29年度考えられる取組みとしましては、区政会議こども教育部会（3回）、教育行政連絡会（小・中学校各学期1回）、学校協議会（市立幼稚園・小・中・高校（20校園）各学期1回）、校長会・教頭会への参画、小・中学校への訪問等による情報共有や意見交換。

それから次に、校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校の支援。具体的には平成29年度からの小学校英語教育の本格実施に向けた英語教育支援や教育活動におけるサポートなどを考えております。

学校でのニーズが高い発達障害サポートへの充実。

青少年「夢・未来」講座の拡充、学校への出前授業です。これらを考えております。

次に、子ども・青少年の健全育成としまして、鶴見区青少年育成推進会議を中心に、

学校・家庭が連携し、青少年の非行防止啓発活動に取り組む。歌やダンス等の活動をしている区内高校生や青少年グループに、日ごろの活動成果を発表する機会を提供し、青少年健全育成の取組みを推進するということで、平成29年度考えられる取組みとしましては、高校軽音ライブクリーンプロジェクトの生徒数、参加校の増員。

それから、青少年カーニバルなどの取組みを、他課との連携を図るなど、より集客を図る方法を考えながら進めていきたいと考えております。

以上、今、説明させていただきました平成29年度鶴見区の取組みの方向性についてにあわせまして、参考でお配りしております平成28年度第1回区民アンケート（自由意見）、こちらの自由意見も踏まえて、ご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○西岡部会長 ありがとうございます。

今の説明へのご意見等ありましたら、お願いしたいと思えます。

ないでしょうか。

そしたら、また私からよろしいですか。この愛Love子どもフェスタというのはずっと僕も参加させてもらって、結構長い期間ずっと続けている事業だと思うんですけども、ほかの事業とかの兼ね合いとかというのもあるって、このまま続けていくのか、ここでの結果というのはすごく難しいと思うんですけど、今のこの方向性というところで、どうお考えかということをお聞かせいただきたいと思いますけど。

○日下保健福祉課担当係長 鶴見区というのは、非常に、先ほども言っていましたように、子どもさんの多い、15歳未満の子どもさんが多いところで、お母さん自体がお子さんを連れて、ご自身で連れて行かれているような、積極的に出ていけるようなお母さん方だけならばいいんですけども、やはりほかのお母さん方となかなか交流がしにくいお母さん、子どもさんとどうしても家の中にこもってしまうようなお母さんなどが、できるだけそういう方が出てきてほしいというのが一番のところをやっている事業であって、そういう意味では、続けていくことで、一度そういうところへ

行ってみようかなと思っていただけるような形になれば、実際やっているのは区役所だけでしているわけではなくて、実行委員会をつくっていただき、地域の方、民生委員さん、主任児童委員さんなどが中心となってやっていただいていますので、そこで皆さんとのつながりをぜひとも持っていただきたいというのが一番の願いでやっております。やり方については実行委員会の中で、どういうことをするかというのはその中で考えていかせてもらう中で、変えていくのはいいことかなとは思いますが、続けていくことは必要かと思っております。

○萩副区長 ただし、漫然とやるのではなくて、常に検証を加えながら、工夫をしてやっていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○西岡部会長 そうしないと、マンネリ化してしまうとね。普段の子育てサロンの結果やと思うんですけども、その中で来た子らと、お母さんともまた仲よくなれたりとか、そこでちょっとした会話もできるとかというのでね、そういうのに対してはすごくいいことやと思うんですけどもね、その辺マンネリ化して、やっぱり毎回行っても同じことやなというのだけはちょっとね。これは実行委員会の中での話になると思うんですけども、また考えていっていただきたいと思えますね。

○猿渡委員 資料1のほうの2ページ目の子育て支援の充実について、中段にあります地域や関係者と連携して児童虐待防止啓発活動の実施、年間20回のうち4回実施ということで伺ったんですけども、上期に4回、下期に16回ということでしょうか。

○日下保健福祉課担当係長 今年度考えておりますのは、地域と連携させていただくのに、各地域校下で地域の防災訓練をされていると思うんですけども、その場に出ていかせていただきまして、参加しておられる方に、皆さんに啓発を行っておりますので、防災訓練が秋以降に非常に多いので、回数的には秋以降が多くなるという形になります。

今の4回実施しておりますのは、地域の防災訓練が2地域もう既にございましたの

で、その2地域に参加させていただいたのと、あと、愛Loveこどもフェスタと区民まつりでもさせていただきましたので、その4回という形になります。

○猿渡委員 その次の学習会・講演会の開催も11月以降に3回開催という理解でよろしかったでしょうか。

○日下保健福祉課担当係長 はい。その予定にしております。

○猿渡委員 はい、ありがとうございます。

もう1点、資料2のほうで、現状の分析の中で、子育てに対する不安感・負担感が見られ、児童虐待相談件数も多く、保育ニーズも高い状況にあるというところで、まとめて書いていただいているんですけども、もしよろしかったら、例えば具体的な数でありますとか、他区、他市との比較でありますとか、その辺のデータがあったら教えていただけたらと思うんですけど、いかがでしょうか。

○貴田子育て支援担当課長代理 すみません、他区との比較というのはちょっとしてないんですけども、まずこの虐待件数ということでは、鶴見区では平成27年度で140件の相談を受けております。

ただ、そのほか虐待ではないけれども、やはりお母さんなどから子育てに困っているということで相談を受けておりまして、合計で416件になっています。

虐待に関して言いますと、大阪市総体の数字は出ておりまして、4,664件となっております。

○猿渡委員 ありがとうございます。

保育ニーズ、待機児童数ということで、表を見させていただいたんですけども、これも年少人口が多いというところで、それに比例して多いという理解をさせていただいたらよろしいか。

○貴田子育て支援担当課長代理 待機児童数に関しましては、一概に子どもが多いからそのまま待機児童数が多いということにもなっていませんので、他区では、鶴見区よりもはるかに少ない人口のところでも、今まで保育所自体が少なかったということ

で、保育ニーズが高く、待機児童がたくさんいるというところもありますし、また城東区さんは実際、鶴見区の1.5倍以上いらっしゃる場所ですので、たくさん保育所があるにもかかわらず、やはり数多く保留児が出ているというようなこともありますので、人口と比例しているというよりは、保育施設数と合わせてこういうふうな数字が出てきているというようなことかと考えております。

○猿渡委員 ありがとうございます。

○宮田委員 先ほどの話にちょっと戻ってしまうのですが、さっきも部会長のほうからお話がありましたように、子育てサロンとか愛Loveこどもフェスタに来られる保護者の方は、子どもさんが小さいと思うんですね。どちらかと言うと。

でも、小学校に関わらせてもらったり、いろいろして見ておきますと、やはりある程度の年齢が高く、低学年よりは中高学年のほうにお子様、親御さんが悩んでおられるという話も聞きますし、そこに虐待のある、ないまではわかりませんが、でもやはり子どもを通じて、学校との関係であったり、いろんなことをちょっと耳にする機会が多いので、できればもう少し年齢層も上げていただくような子ども子育て支援と言うんですか、それもちょっと1つ考えていただければありがたいかなと思っております。

なかなかね、ちょっと難しいとは思いますが、でないと、やっぱりそういうのも表に見えない部分だと思うんです。

先ほども言われたように、そこに来られる方は多分、悩みがないと思うんです。ちょっとぐらいの悩みはそこに来られたら解消して帰られると思うんです。そこに来られない親御さんもたくさんおいでになると思うので、やっぱりそういう方をどういうふうにかから引き出すと言ったらおかしいんですけどね、それをやっぱり地域の子育てサロンとかを利用していただくとか。なかなかちょっと難しいんですけども、こども食堂とか、そういうところに親子で参加できる。子どもだけでも参加できる。ちょっと子どもと話しているとか親子で話、お母さんたち、お父さんたちと話しするこ

とによって、何か持っておられるのではないかなということもちょっとわかると思うんです。それがこども食堂だけじゃなしに、いろんな場面でね、ちょっとでも何か問題があるというのが把握できるような場所がちょっとでも設定されればいいのかなと。なかなかね、子どもさんが大きくなると難しいと思うんです。いろんな取り方もあるし。何でもそうだと思うんです。小さいうちに芽を摘んでおかないと、やはりいろんなところでいろんな問題が起こってくるので。鶴見区は子どもさんをお持ちの世帯、お若い世代がだんだん増えてきている分、反対に隠れる部分もあるのではないかなと思うことがちょっとあったので、それも含めて、この子育て支援のところで何かあれば。

○萩副区長 先日、こども食堂の講演会が区役所であったんですけど、そのときに非常に心に残ったのは、こども食堂というところは、単に食事をするところと違うねん。食卓なんや。だから例えばしつけとか、御飯粒残したらあかんでとか、いただきます言うんやでとか、そういう食卓を提供しているんやなというのが一番心に残ったことですね。

ちょっと僕、個人的にすごく興味がありましてね、どうやったらうまいこと実現できるかなってずっと考えていましてね、多分、地域と行政と民間、この3つの力が不可欠なんですね。

我々行政は、いかにこの3つをコーディネートできるかというのが課題やなというふうな結論になったんですけどね。

個人的には、ぜひやってみたいですね。

○西岡部会長 今、副区長のほうからあったように、今までは行政と地域だけというような形になったんですが、今からは難しい。僕も地域でもやっててね、やっぱりこれ以上、地域の人に負担かけていくのは、もう話を出した時点から、これ以上またするんかというような意見がだんだん多くなってきているんです、今。

ですので、地域によっていろいろですけども、食事サービスとか喫茶とかというの

も、うちの場合なんですけども、女性会さんにおんぶにだっこになってしまっているのが現状なんです。そうすると、やはり女性会さんのほうから、何でもかんでもこっちかと。ほんならそれはやっぱりちょっと民間のところを入れてもらったりして、ちょっとでもそういう負担も軽くやってもらったら、手伝いやすいかなと思うんです、いろんな面で。

○萩副区長　地域と行政で一、二回はできるんです。けど、持続的にやろうと思ったら、やっぱり民間の力をね。

○西岡部会長　そうですね。今はもうやっぱり借りないとちょっと無理かなと思っているんですけどもね。

○猿渡委員　具体的に、こども食堂に関しては僕も参加させていただいて、お話伺って、じゃあうちの法人でやりますとなったときに、どの窓口に行けば、お話を聞けるか、ぜひ今日伺って帰りたいなと思うんですけど。

もう大阪市内かなり進んでいる印象を受けました。

というのは、やはり西成区のほうで、相当、地域のネットワーク、民間と区役所と地域が手を結ぶ形で、そういうこども食堂のニーズ、またそういう形の支援のニーズの高い地域だろうとは思っていましたが、そこをやはり重く見た人たちから動き始めて、かなり先駆的に、それも国内でもかなり先陣を切ってやっているイメージで、もちろん周囲の区が区長会とかで連携取り合いながらやっていきましょうねということで、同じサミットに行かせていただいたんですけど、サミットの中に、大阪市内の区長さんがたくさんおられる。非常にびっくりして、えって思うぐらいの感じやったんですね。

リサーチが多分、民間でやると弱くなるというのを、こども食堂のシンポジウムの際に、あの大学の先生がお話しされていたと思うんですけども、まさに地域ニーズを一番把握しておられるのは区だろうと思うんです。区役所の方と、じゃあどこの窓口に行けばお話をできるのかというところが周知されると、民間で手を挙げるところ

は、恐らくうちも含めてあるのではないかと思います。

地域のご婦人方に非常に負担が、という話もありましたけども、例えば仮にうちでスタートしましたというときに、皿洗いだけ手伝ってもらえませんかというのを地域に投げたときに、おんぶにだっこではないんです、一部ここだけ、材料切りだけお願いしたいとかという、ちょっとしたお願いができるような、また先ほど副区長が言われました、コーディネートというのも実際、うちの法人でやりますとかとなるとね、民間の悪い癖としては、自分とこで起承転結させなあかんという、そうでないと社会的信用を失ってしまうという考え方があるんですね。

なので、手を挙げていざやりますと言ったら、もうすべて、金銭的なものから、それこそ来られた人たちへの接待から、すべてこちらでやらんとあかんと力んでしまって、長く続かないという、やはり継続性に。だからどこかが単独でやっても、例えば行政がやっても地域がやっても民間がやっても、単体でやると、これ多分続かないのかなと。いっぱいつくっていっぱいぶれるというのが非常に悲しい話であって。だから意気込みは皆さんあった。志も高かった。でも継続ができないというところの事情の1つが連携不足やなということはずごく感じたので、どこからスタートできるかわからないんですけど、相談の窓口がここにありますよというのを周知したときに、もうこれはショックだったのが、居酒屋チェーンさんが始められたとかいう話があったり、イタリアンのシェフたちの組合じゃないんですけど、何か交流会みたいなのところが手を挙げたとか、そういうのを見ていると、何から火がつくかわからへんねやなど。そこに危機感を覚えられた、宮田委員もおっしゃられていましたけども、何かせなならんのと違うやろかと大人たちがざわざわするようなね。虐待にしてもそうなんです。こども食堂に関して、結局、食の取組みのように見えますけども、やはり虐待を早期に察知するアンテナの一部だろうと認識しますし、そういったところでは、先ほどの数字もさらっと僕、聞いていましたけども、1年間で400件が多いか少ないかということ、単純計算してみると1カ月に大体30件です。市内全体で約4,6

00件といえば市内全体で1か月で約380件起こるわけですね。それが24区でということになると、この鶴見区の8%は果たして低いと言えるのだろうかというところでちょっと不安を覚えるわけですね。

やはりこういう取組みというのはやり過ぎるということがないと僕はずっと思っていて、もう余って当然。でないの一部の命が救えんのだろうなって思うんですね。そこまで深刻な状況じゃなくても、やはり子育てにストレスを抱えておられる方とかが区内におられるというだけで、やはり子育て支援の行き届きぐあいというのがはかられてしまうのではないかなという思いがあって、やり過ぎるぐらいにいろいろやれたほうがいい。スタートはどこからでもいい。だれが始めてもいいというような、その間口、とっつきにくさがやっぱりあるので、やはり手を挙げるにあたっては、継続性が一番、僕自身としては不安なので、そこを何か改善できないかなというのをすごく感じます。

○宮田委員 本当に難しいと思うんですけど、できたら区のほうで何回かやっていただいて、それが各地域で持っておりていって、自分たちでできるというほうがまだスムーズに行くと思うんで、今、言われているように、地域から先に立ち上げると言ったらなかなか難しいし、企業さんと言われてもやはりそこに声かけるのもね、なかなか私たちのほうから声をかけても、ちょっとという部分もあるので。

○猿渡委員 おっしゃるとおりです。

○宮田委員 そうですよ。それで、お手伝いするにしても、ボランティアとして純粹に働いていただける方、なおかつ、やはり無償というのはね、なかなかいろんな部分でだめだと思うので、例え100円でもいいからもらってするというように、やっぱり区でまずは取り組んでいただいて、それにお手伝いするのは別にやぶさかではないと思っている部分があるので、まずそこからちょっと考えてもらって、12地域におりていけばいいし、12地域でしんどければ、近くの茨田、それと茨田西さんとかが地域でいつするかとか、それは持ち回りでもいいと思うんですよ。やはりそこだ

けにするとまた大変なことになるので。

区民センターの調理室を使わせていただければ、もっと何も言うことないと思うんですけどね。

そういうふうになんかちょっと考え方を覚えてもらったら、こども食堂の講演会を聞いていて、私も5年ほど前ぐらいからずっと何かしたいなと思っていたんですが、やはりなかなか難しいんですよね。

夏休みになると、子どもがやせる。やはりあれが一番堪えたんでね。

給食費の問題はさておき、やはり長期になって、多分、親御さんもお仕事されている方ね、つくって行かれる方もいるし、今日はごめんねって言って、何か買っというと買ったって、それを子どもが使ってね、食事を買うわけではないというのもわかった上でお話しさせてもらって、親が悪いわけではないのね。やはりそれをどういうふうにやっていくか。

でも、反対に、全然食べられない子がいるというのも事実ですからね。なおかつ、お金を持っていることによって、青少年育成じゃないけど、やっぱり違う方向に行きますから。そうなるとうちまた非行に走ったりとか、いろんなことが起こってくるので。

○猿渡委員 ワンセットで話が出るんですね。こども食堂の話に僕は物すごい興味があって来させていただいて、そこで虐待が出てきて、今度は非行が出てくるんですね。だから全部、青少年も、問題点がそこに凝縮されていると言うか、象徴されているというようなイメージはすごく受けましたね。

○萩副区長 先ほどの夏休みになったらやせるという話がね、もう学校の給食だけで生きている子がいてるんです。

○真鍋副部会長 それは区内でもいますか。

○萩副区長 区内で調査したわけではないのですが。

○宮田委員 でも、他区にはいます。それは確かです。

○萩副区長 あと、親の無関心みたいなものがありましてね。この前に暴風警報が

出て学校が休みになったんですが、ある子どもが学校へ来たらしいです。教員が、警報出たから今日はお休みよと言って。教員が家にも電話を入れたら、その子の親が、「えっ、うちの子、今日学校行きましたか」と言ったみたいです。

だからね、普段から無関心なんですよ。子どもを何も見ていない。そんな親が多々いるのでしょう。ですからそういう親をどうしていくかというのは、片一方の問題だとは思いませんね。どうしたらいいでしょうね、そういうのは。

○西岡部会長　　そうなんですよ、ちょっと話がはずれるかもしれないけど、僕らもずっとPTAやっていたときから、親をどう変えていくというのは、これが一番しんどいんですわ。

○萩副区長　　子どもは結構、変わるんです。

○西岡部会長　　子どもは、先生からの指導などである程度までは言うこと聞くんですが、問題は親ですわ。親が学校に対して怒る。だから親の意識をどう考えるのか。これがなかなか言わずもがなやと思うんです。

○木本委員　　最近の親の年の差がすごい離れている。二十歳そこそこの親もおったから50歳とか、60歳近い親もいてるんですよ。年代差がすごいんです。価値観も違う。そこへ持ってきて、やっぱりお母さんとお父さんの年齢が離れている人もあるでしょう。

そこで、結果的に、僕らの子どもころ、ほんまに親よりも学校の先生が怖かったんですよ。クラブの先生が怖かった、部長が怖かった、監督が怖かった。親よりも。

でも、今は逆なんです。先生のごときは余り怖いと思ってないんですね。学校だから、育て方の問題もあるかと思うんですけど、やっぱり遊びとかも全然変わってきているでしょう。携帯とかそんなんとかね、テレビゲームとか。

僕らのころは、家帰ったら、まずかばんをぼんとほって外遊びに行っ、どろどろなって帰ってきて、怒られて、ごはん食べてふろ入って寝るっていう感じ。当然宿題はしましたが、そういうふうに本当に今と違う、いい意味の自由だったんです。今

はね、やれ塾へ行けとか、押さえつけるばかりで、逆に子どもに対して逃げる道をつくってやってないところがあると思うんですね。僕の子どもは、子ども的人格にもよるんですけどね、ちゃんと聞く子は聞くんですけど、聞かん子は聞かん。実際問題、親の前と出てからと全然顔が違うんです、二面性、三面性を持っているから。そういうところをどういうふうに見ているかというのは、やっぱりそれは親として、言うたら何か責任転嫁をしているみたいかもしれませんので、地域とかやはり学校の先生に見てもらわないと、なかなか見切れないというのがあるという。

しかも、校区外に行くなと言っても行きますから、最近はね。

○萩副区長　　行きますね。

○木本委員　　行くでしょう。それがなかなかね、言うてもわからんのかなというのもあるんですけど、問題さえ起こさんかったらええわというふうなところはあるんですけど、やっぱり一線は守ってほしいなというのは、逆に、親もそういうことは普段から言い含めるといのが大事かな。人に対する愛情がないと言うか、感謝の気持ちがない人が多いから、無関心が出てくるんじゃないかなと思うんですけど。で、他人の子を叱らない。

○萩副区長　　そうですね、叱りませんね。

○木本委員　　僕らは近所のおっちゃんによい叱られましたけどね。今は逆に他人の子を怒ったら、その子の親が怒りますもんね。それがすごくおかしいなと思ってね。

○萩副区長　　僕らの小さいころ、学校の先生はほんまに怖くてね。よう怒られていたんでね。

最近の子ども、何て言うたかと言うと、「先生、そんなことしたらクビになるで」と。

○西岡部会長　　そうですね。

○木本委員　　そうそう。

○宮田委員　　1番多いです。

○萩副区長　このパターンが多いんですよ。そら先生もやってられませんね。そういうのが悪循環で、どんどん子どもを弱くしてるのと違うかなと思うんですけどね。

○宮田委員　だから反対に、親もどういうふうに子育てしたらいいかという悩みもそこにあると思うんですよ。核家族になっているからね。昔やったら大勢で住んでいきますから、おじいちゃん、おばあちゃんがこう言って、自分らもそういう世代で育ってきたと言ったら、ある程度はノウハウもわかるけども、今はいろんな情報があるから、インターネットを調べれば、何歳になったらこれをする。それこそ産まれておぎゃあと言って、ハイハイするのは何カ月と書いてあって、うちの子は、ハイハイせえへんの、これおかしいんと違うかという親でしょう。おしっこの色が違うって、紙おむつは色が変わるわけでしょう、黄色が。それでもおしっこの色が違うからって病院に行ったりする親がおるといふ。結局そういう、何かどうしていいかわからないという部分から全部来ていると思うんですよ。

だから私らのときは、学校で今、何が起きているか一番わかるのはPTAやし、子どもが行っているからできるのがPTAやから、PTAはしたほうがいいよってずっと言われたし、また私たちもそう言ってきたんです。それをいまだに引きずっている部分があるのでね、機会があったらしたほうがいいって、うちの娘にでも言うし、向こうもちゃんとしましたし。やはりその中で自分たちが考えていく。子どもをどういうふうにしてあげるか。自分らができることは何か。そのかわり今のPTAは私らと違いますから、すごく甘い部分があると思っています。

だからそんなんも含めて、甘い部分もあるけども、やっぱりここだけはしっかりして、PTAとは何をするのか、PとTとAはどういう意味かというのを、そこをわからずにやっているPTAさんもおいでになるのがあるのでね。やっぱりそんなんがもっとわかれば、すべて1つにくくったらあれかもわからないんですが、全部そこに入ってくると思うんですね。だから1つでも糸口があれば、そこから、こういう考えがある、それはこうやってというような感じにやっていけば、虐待であろうが、青少年

の非行であろうが、すべてちょっとでも前向きに行くのではないかなと思うんですけどね。

だから、やっぱり子どもたち、親御さんたちとも顔を見て話をするとか関わること
によって、世の中変わってくると思うんです。

だからまずは、子どもたちがどういう顔を学校で見せているか。それもわかりますよ。私らも、えっ、全然違う、ふだんめっちゃおとなしいのに違うやんっていうところもあるし、遊びでやっていると言ったって、こっちから見たらそれはいじめと違うかととられるようなことも、子どもってすごい怖いところがありますからね、結構やるんですよね。

でも、やっぱりだれかが見ているよと言ったら、それはちょっとは変わっていくし、それがいじめなんやというのもわかるし、親御さんもそうだと思う。愛情があつたたいたら虐待ではないと言うけれども、私たちもやっぱりかっとしたときには、もう思いっきりどついていましたからね。よそから見たら虐待かもわからん。

でも今は、親御さんでもなかなかたたけないことになってるんでね。すぐ虐待ととられる。だからそこが物すごく難しいと思うから、やっぱり子育てしていく上で、親も、こういうときは怒って手を挙げてもいいのか、そうではないのかという見きわめは物すごく難しいと思います。

だから、子どもを持つ前からずっと、孫ができてもしっかりずっとそれはあると思うし、さっきの話じゃないけど、先生が怖くない、孫にもそんなに嫌やったら学校行かんでいいやんってすぐ言うんですけどね。

でも、そういう選択肢もあると思うんですよ。別に、学校に行って嫌な思いして精神的に病んで表に出られなくなるような子どもよりは、それやったら行かなくていい。違う方法もあるのでね、その子に合ったいろんな方法を探せばいいという、そういうのもやっぱり皆さんわかってもらえるように、知らしめるような。ちゃんとしないと、ちょっと今の時代はしんどいのかなと思っています。

○西岡部会長　前川委員、どうですか。先生をされていて、立場からと言うたら言い方おかしいんですけど、現場にいはった人なんでね。

○萩副区長　高校やからな。

○西岡部会長　高校やから、またちょっとあれかもしれないんですけどね。

○宮田委員　でも、高校は高校でね、すごいまた問題あると思いますよ。

○前川委員　今、耳の痛いところもありましたけども、一方で確かに、話がちょっと脱線しますが、私も今、習い事をさせてもらって、4年ぐらいになるんですかね。そのうちで、1年目の半年ぐらいで先生がかわったんですよ、僕の都合で。かわった途端に、その先生がすばらしい先生やった。同じことを習っているのに。とすると、家に帰って、家内と子どもらにしゃべっていると、やっぱり教育は先生次第やねと、僕も実感したんですけど。

一方で、近所でこの前、中学校の運動会があって、よく聞こえるので、体育の先生が生徒に指示しているんですけど、横向いてください、こうしてくださいって。ちょっと待てよと、命令形じゃないんかという感じになっているんですよ。非常に優しいのかもしれないんです、その中学、見た限りではいい中学やと思うんですけど。

そう思うと、皆さん、委員の方々が話しされたとおり、状況がかわってきている。私も高等学校でPTAの係等もやらせてもらったんですけど、PTAでもよしあしですわね。いい人もおれば、文句ばかり言う人もおる。しかし、文句ばかり言う人を我々がひっ捕まえて、こうこうでと説明すると、申しわけないんですけど、高校ぐらいになると理解してもらえるんですけど、ところが、さあ小・中学校になると状況がわからないので。

皆さんがおっしゃったように、PTAも含めた保護者、先生方、先生方は我々が、この鶴見区の区政会議が指導するというのはめっそもないことなんですけど、保護者対象に何かポイントを決めて、このこども部会で何か話し合いとは言わないんですけど、例えば部会長がこういう経験談をお話しされる、今、猿渡委員が、宮田委員がおっし

やったようなお話をするような会を持ってもいいのと違うかなと。その中で何人かでも理解してもらったらいいのと違うかなと。今までのお話を聞いていると、保護者とかそういう方々に向けた話し合い、講演会、そういうのも考えていただけたらなというのが、委員の皆さんのお話を聞いて感じたことです。

○猿渡委員　それをまたインターネットで公開するとか。

○前川委員　そうだね、もちろん。

○猿渡委員　キーワードで手軽さみたいなのところも、恐らくニーズかなと思うんですが。

○前川委員　難しく言わないでね。

○猿渡委員　だから、のぞきたかったらのぞけるような。公開の場で、座談会的にみんながざっくばらんに話しているのを見ている、聞いているというところの切り口は、アプローチとしてはソフトやなと思うんですね。それで、どんどんハードルが上がっていくと、何とかの会に来てくださいになるやろうし。最終的には、入場料が発生して、チケットを買ってみずから行くというのが、多分一番ハイレベルな取組みになるんやと思うんですよね。

それで言ったら、誰もが参加できるもの、間口が広いのは、今はやっぱりインターネットなんかと思ってしまうんですけど。それで、子育て経験をみんなでおおらかに語ろうみたいなのところが、区役所のホームページから見られるとか、こんなんやっでたんやとか。そしたら次、区役所であつたら行ってみようかになる人が、本当に2、3人おつたら、大きな変化ではなかろうかなと思うんですけどね。

○宮田委員　私らがやっている、市のほうでやっている井戸端会議、今は名前がかわっていますけど、初めは3人でやったんですよ。久先生に来てもらって、教育委員会がやってね、私と中央区の代表さんと、旭区の3人。ほんまに先生をのけたら3人ですよ。そこから始まった。今は名前がかわってエルキューブになっているんですけど。

それで、うちの区からの参加者がいつも多いのは、一回行きなさいって言うんですよ。合わなかったら、自分と考えが違ったり、これは全然違うことをやっている、ちょっとおかしいんと違うかと言えば、二度と行かなくていいと言うけれども、うちの区はすごく多いんですよ、数が。なぜかと言ったら、行って、新しいものを持って帰る、いつも言われるお土産があるんですよ、参加することによって。そういうのがいわゆる手軽さであって、行ってこういう話を今日は1つ聞いた。これってすごいいいよなって言って、1つでもお土産があれば、また参加者が増えると思う。

だから、初めは3人でもいいと思うんです。それでも成り立って、その人がロコミ、やっぱりロコミがものすごい大事やと思うし。で、インターネットも言われるのもわかるけど、紙ベースだったら広報つるみに掲載する。あれは、やっぱりすごく読んであるので、すごくいいと思います。なかなかホームページというのは、いつも話が出ると思うんですが、やってすぐ開いたら、どこでも見やすいというのはあるんやけど、なかなかそこに行きつけないときもあるんですよ。そうすると、探している間にわからなくなってしまうというのもあるので、紙ベースの広報つるみはすごいなと思って、今、全戸配付ですからね。特に、アンケートをとっても、何で知ったかと言ったら、広報つるみというのが多いと思うので。やはり、そういうのをしてもらって、1人でも参加してもらえるように、どこかの機会でね。なかなか今からでは難しいと思うんですよ。でも、来期でも1回でもそういう会に参加していただくことがあれば、すごくいいことになると思います。防犯灯もいっぱいついて、明るくなったんですからね、地域も。

○猿渡委員　あとは、学校協議会ですか。校長会、教頭会というのが、どうも水際のような。やはり現場で子どもさんを見られていて、夏休み中は子どもと会われへんのやけど、この9月はやっぱり、学校の先生と親御さんたちって、その体調の変化とか、成長やったら望ましいことやし、喜ばしいことやと思うんですけど、夏休み明けの体調、どういう生活をしていたか、やはり授業が始まってもすごい眠そうな子

が多いとかいうところに、どうしても気が向くんやと。運動会の練習もせなならんのやけど、夏休み明けの子どもたちの生活がどうかというのを察知するのに物すごく心を砕かれている方のお話を、親御さんからも聞きますし、現役の先生方からも聞くわけですね。

先ほど、もう、ややこしい話はこの話も、本音であってええと思うんですよ。しゃあないと思うんですけど、でも先生方が集まる場でケースを把握する、もしかしたら、そういう場所を活用できれば、子どもたちの変化が、ちょっとネグレクト疑わしいよとかという、他の校長先生からのアドバイスや教頭先生からのアドバイスもあるでしょうけど、そのケースを出し合って、状況を把握することが多分、先決のような。

この間はいろんな話を見聞きしましたが、やっぱり何かがあった子たちには、どこかにその連絡の齟齬があるというか、セーフティネットからもれる子たちが結局、命までも失くすようなことになってしまっているのを見ると、ネットがどこかでほころびてたりとか、連携ができてなかったらあかんのだろうというところで、出したことでややこしくなるんじゃないかと、状況を共有するというか連携して、その子たちをつかむというのが大事なんじゃないかとすごく思うんですけどね。

お忙しいのは十分わかっていますけど、それこそデータで何件、近しい案件、疑わしい案件、学校ではもしかしたら、それが、先生方が出すのを嫌がる中身なのかもわからない、データとして出したがらない中身かもしれないですけど、対応できたとかできないとかではなくて、実数をどれだけ丁寧に把握するかとか、スタートできないような気がするんです。学校協議会であるとか、校長会、先生方の集まりの中で、そういうことをこの区でやっていきませんかみたいな提案ができないものかなと思うんです。

○萩副区長 今のような学校との連携はやっていませんね。学校校内で、例えばネグレクトの子や多動の子が何人いてとかは区役所ではつかんでいない。

○貴田子育て支援担当課長代理 人数としては聞いていませんけど。

○萩副区長 相談は受けるわな。

○貴田子育て支援担当課長代理 はい、相談は各学校から日々。

○猿渡委員 先ほどの件数の中に含まれるということなんですかね。

○萩副区長 含まれない。

○猿渡委員 窓口に来られた方の件数ですよ。

○貴田子育て支援担当課長代理 実際に虐待と認識された人数というのが、140という数字なんですけど、それは相談件数とは全く別のところになりますので。学校からの相談件数は、多分さっき言った410件の中には、はまっていないケースもあると思います。

○萩副区長 鶴見区ではないですけども、ネグレクトとか相談があったときは、教育委員会の指導部と、区の保健師、校長先生で場をつくりまして、どうしていこうかと、学校全体というよりは、個別の子どもたちをどうしていくかという相談はあるんですけどね。全体的なのは、今のところはないかな。

○貴田子育て支援担当課長代理 昔は学校は結構、中に中というところがあったんですけども、最近はそうではなくて、例えば民生委員さんとかでしたら、もちろん守秘義務も課されているわけですから、その方たちと区役所も共同してということで、学校によって違うんですけども、主任児童委員さんの取組みとして、学期に1回ずつくらい、主任児童委員さんや民生委員さんたちと一緒に、学校で課題や気になる子たちについての情報共有を図って、日ごろの生活を見守っていただくというような取組みもすごく熱心にされている学校もあります。残念ながら、そこまでいたっていない学校もあるんですけども、学校によって、やはりすごい危機感をもってやっておられたりとか、それも小学校、中学校を同時にやっておられるようなところもありますし、そういうふうな取組みというのはちょっとずつ広がっているのかなと思いますし、何かありましたらすぐに、とりあえず区役所のほうにこういう子がおるねんと、対処は学校でやっていくけれども、とりあえず役所のほうも知っておいてという

ような形での情報共有とか連携とかということもやっていますので、少しでも先ほど言われたネットからもれる子たちを減らせるようなというのは、関係している人たちすべての思いとしてあるのかなと思っています。

○萩副区長　これが参考になるケースかどうかかわからないですが、保護司さんが琵琶湖のほとりに別荘を持っていて、保護司さんだから学校へしょっちゅう行って、やんちゃな子に夏休みに来いって言って、その子たちを連れていくんですね。そこでバーベキューをしたり、泳いだり、それが全部口コミで広がっていくんですって。それを区役所として何とか応援できないかという話になりまして、実際に予算をつけて、借上げ代として払うとか食べ物を渡すとか、そんなことをしたケースがあります。

地域と行政とが、本当にやる気になったらできる部分ってかなりあると思うんですよ。今、委員の皆さんがおっしゃったようなことでも、頭からできないないじゃないしに、どうやったらできるかという発想で僕らもやりたいと思っているので、ぜひアイデアをいただけたらありがたいですね。

○宮田委員　うちは今年ね、学校協議会を小・中学校、一緒にしたんですよ。

○西岡部会長　今までは小学校は小学校、中学校は中学校でしたが、うちは1小1中なんでね、やっぱり小・中学校が一緒にやったら、余計にわかりやすいんですわ。

今までなら校長によって隠しているとかそういうのがあって、中学校に入ってきた時点ですごく困るといのがいっぱいあったんですね。その子がどういう子どもかという、接し方もわからないし。やはり、そうやって一緒にすることによって、この子にはこういう指導がええん違うかなというのを、先に考えられると。その子にすごい問題があるのか、家庭に問題があるのか。家庭でも母親に問題があるのか、父親に問題があるのかとかね。やっぱり細かいところが違うでしょう。そういう情報を先にわかっていたら、中学としては指導方法も考えていけるんでねと。

そうしないと、今までの状況やったら、入ってきて、いきなり何かバンとする。えっと思ったら、実はずっとやっていたとかいうのやからね、さっきあったように、表

向きは普通の子やねんけど、実際してたことがというのがね。そんなんが、すごくわかりやすく。この前初めてやったんですけどね、1回だけ。でも、その中だけでも、それをしたことによって、小・中学校の校長とか教頭らが連絡をしやすくなっているわけです。今までやったら、どんなんですかと言ったら、いやそれはね、みたいだったのが、それがスーッと、簡単に意見交換というのができていくみたいな形でね。中学校にもさっき言っているように、そういう指導の方法というので、いろいろと考えるあかんなど。この子にはこういう指導方法でいかなあかんと。この子やったら、こっちが言うことは理解して、聞いてくれるのと違うかというのものもあるしね。子どもによっても、頭ごなしにきつい言葉で言うと反発する子もいてるし、その辺のやり方もだんだんわかってくるというのでね。

○萩副区長 横提の校長先生が前任校は小学校やったからね。

○西岡部会長 その辺もうまいことね、その中でのやりようで、こうやってかわるのかなって思ったぐらい。たった1回のそのことがね。

○宮田委員 やっぱりそういう連携ができたというのは、校長先生、今までに多分努力はされていたと思うんですよ。どうしても、小学校で関わっている人と、中学だけしか関わっていないメンバーで、あとは協議会メンバーってそんなにかかわらないと思うから、すごくあれはよかったと思う。初めはどうなるか、今回初めて一緒にしますと言われて、これはどういうことなんやというのはあったんです。でも、参加して、本当に中学のこともよくわかるし、小学校のこともよくわかる。それで、先生同士もすごくいろんなことを協力し合って、意見交換されているので。

でも、やはり問題のある子をどう対処していくかというのも、その中ではいろいろ考えてされたと思うし、反対に地域としてかかわっている子どもならば、その子に対して、私らには普通にももの言うよとかいうのがあれば、そんな話もできるしね。

○田中こども・教育担当課長 それで申し上げますと、今、古川校長先生が鶴見区の幹事校長をしてもらってしまして、今まで小学校は毎月校長会をしているんですけ

ど、中学校は基本的にはないんですよね。そういうことで、できる限り集まる場が欲しいという話もございまして、今のところ、月1回ペースで中学校の校長先生に来てもらって、そういう場を持つということをやっているんですね。

その中で古川先生もそういう話を他の校長にされたりしましてね、そこからまた小中連携ということが、他の校長先生もその辺から刺激を受けられて進められるとかいうようなこともあるかもしれませんが、そういう校長先生方の集まりというもの、もっとやっていかないとと思っています。1つのいい流れになっていると思いますね。

○宮田委員　だから、こういうのがずっと続けばいいかなとは思っていますけどね。なかなか難しいと思います、小中連携。ある程度はできても、中深くまで。だから、今は小学校で何かあったら、すぐに電話かかってくる。今、こういうことが起こっていますと言って。

○萩副区長　1小1中が、一番やりやすいんでしょうでしょうね。

○宮田委員　だから、そういうのも含めると、やはり1小1中のすごくいいところ、反対にひょっとしたら悪いところも出てくるかもわからないんですけど、それはみんなでいろんな意見を出したりとか、地域がどれだけ言えるか。文句を言うんじゃないし、お互いにどう協力していけるかというのが大事やしね。横堤小学校に行っていて、中学校に行っていて、地域に住んでいてというような子どもが育てられれば、将来、本当にボランティアも育っていくと思いますので。小さいときから一生懸命育てないと、ボランティアも。

○西岡部会長　あと、どなたか、何かございませんか。

○前川委員　この資料1の戦略3-3の下のほうの「異文化、英語に親しむ」のところの異文化交流（小学生対象）というのが、これからも含めて4回開催されるんですけど、去年の実績を見させてもらったら、内容がドイツ、ネパール、アメリカ、スリランカとか。この対象は小学校4年生から6年生。

僕、委員をさせてもらいながら、内容を全然知らないんですけど、なぜ小学生の高

学年をこの対象にされているのかなというのが1つと、あと去年の資料を見たら、昨年度は9回されているんですかね、今年度が4回、これは何か予算の関係なんですかということと。もう1つ、内容的に、非常におもしろそうな、もちろん行事的な10月のハロウィンやクリスマスとか行事関係もありますけれども、本当に異文化として、ドイツ、ネパール、アメリカ、スリランカとか、こういうのをされているんだったら、なぜ中学生も入れられへんのかなと。何か事情とか都合もあると思うんですけど、なかなか内容的におもしろそうなところだから、範囲を広げてもいいんじゃないかなということと、回数の件と。あと、周知は各小学校に区役所からされているんですね。

○杉本地域活動支援課係長 周知のほうは、広報つるみに掲載しているのと、チラシを配架したりしています。

○前川委員 それなら、自由に子どもらがここへ来る。

○杉本地域活動支援課担当係長 はい。

○前川委員 それで、毎回25人ぐらい来るんですよ。プラスアルファで、中学校も入れたらどうかと。

○杉本地域活動支援課担当係長 回数のこととも関係してくるんですが、前年度が9回で今年度が4回ということですが、昨年度は小学生を対象に異文化交流だけをやらせていただきました。が、今年度は中学生は英語に特化して5回実施させてもらっています。こちらのは、前半の4月から8月までの実施で、講座は毎回2時間あるんですが、講師の先生と留学生も来てもらって英語だけで交流するというのを5回、展開しました。後半は、昨年度9回実施したんですが、今年度は中学生も実施したので、小学生に関しては後半4回の実施ということにさせていただきました。

○前川委員 わかりました。ただ中学生の、英語だけじゃなくて、こういう内容だったら、関心、おもしろいなと思う子がおるような気はしますが、今の説明でわかりました。ありがとうございます。

○西岡部会長 ほか、何か。

○猿渡委員 1点よろしいですか。区でできる待機児童解消の取組みがあればというようにご発議があったかと思うんですけど、かなり難しくないかと思うんですね、保育行政にかかるものだと思うので。実際、国の保育制度までさかのぼる話かなと思うんですね。待機児童の問題も語られて久しいにもかかわらず、待機児童をゼロにできた実績を持つ行政機関というのは、かなり国内でも少ないと思いますし、地域格差も多分大きいと思います。

鶴見区の特性として、すごく子育て層、しかも若年層の流入というのが多い。なら、待機児童を今後減らそうと思ったら、保育園を増やすか、今通っている人を辞めさせるしかないじゃないですか。実際のところね。待機児童を減らすということだけを考えてると。

○西岡部会長 だけを考えてとなればね。

○萩副区長 通常あるのが、保育所が足りないと言って局へお願いをしに行くわけなんですね。いろいろ調整をして、少しでも保育所をたくさん建ててもらおうとするんですけど、これはあくまで局なんですね。

区として何かできないかと。例えば、複数のバスを走らせてね、子どもさんを拠点からその保育所へ届けるとかね。それなら、親御さんがなかなか行かれへんというのも解消できるのではないかと、いろいろ考えているんですけども、どれも大きな壁にぶつかって実現ができない。ほんまに区として何かやりたい、できることがあれば何でもしたいんですけども、そのたび計画がぼしゃってしまうとかいうのがあるんで。何でもいから、とりあえずアイデアを集めて、1個1個、消していく、消されても構わないから検討しようというスタンスでいるんですよ。

○猿渡委員 なるほど、わりかし大きな話やなと思って伺っていたんです。例えば、保育所をつくっても、保育士さんが集まらなかつたら開始ができないじゃないですか。

○西岡部会長 それも今、問題になっているんでね。

○猿渡委員 今度は保育士が足らんからって、大阪市から新任の保育士さんに対し

ての補助金というか手当てが出るようになったりとかって。でも、新人さんって1年だけですからね。2年目以降になったら、給料ががたっと減るねんとなったら、1年目で終わる先生たちが増えるん違うやろうとか、いろいろ考えてしまうんでね。

だから、保育士さんの問題も絡んで、今度は保育園の維持ですね。入所児童が右肩上がりであれば、運営・経営は成り立つであろうと思うんですが、ここから先、10年たってどうなっているか、20年たったらどうなっているかと、長期のスパンで考えたら不安になるから、多分建てへんのやろうなと思うんです。そこから先、閉めるわけにはいかんのやでという。

その辺をフレキシブルにする方法がなければ、制度が変わる、待遇が変わるというのを口を開けて待っているしかないのかなという印象やったので、鶴見区の姿勢が、そういう貪欲さというか、できることは何でもということであるんやったら、何とか考えます。何かないか、考えます。何かないか、みんなで考えんとあかん問題やと思うんで。お任せしとって、じゃあよろしくっていう中身ではなさそうな気がするんで。

○萩副区長 これは、まちづくりの問題でもあるんですよね。変なまちをつくったらお年寄りばかりになってしまったりね。昔、いっぱいマンションが建って、子どもがいっぱいあふれたところがあったんですが、今、幼稚園なんて悲惨。定員の半分も集まらない。そういうことにしないように、うまいこと人が回っていくようなまちづくりをしないとあかんでしょうね。非常に悩んでいるんですよ。どうしたらいいのかなとね、30年後。

○西岡部会長 そうですわね、今の時点はこれがベストやというのも、さっきの話の中で、10年後、20年後、20年どころか今の10年といたらすごい早いんでね。

○猿渡委員 早いんですね、早いです。

○萩副区長 これ、今やっとかなあきませんねん。

○西岡部会長　　今やっとかな、間に合わんような形になってくると思うんでね。

○萩副区長　　間に合わないのですよね。

○猿渡委員　　建ってもうたらね、あっと言ったときには遅いのですよね。

○萩副区長　　遅いですね。

○木本委員　　でも、高齢者はまだ増えるでしょう。

○萩副区長　　どんどん増えていくんですよ。これから。

○木本委員　　団塊の世代が増えてきたときに、そのギャップがすごい出るんと違うかなとは思う。

○宮田委員　　熱が37度5分あると、すぐ保育所から電話がかかってくるでしょう、すぐお迎えにきてくださいってね。それで私も電話をかけて慌てて迎えに行ったりしている状態なんですけどね。だから、やっぱり病児保育。鶴見区はどれだけ。

○猿渡委員　　病児保育、鶴見区ないですね。

○宮田委員　　そうですね。そうなってくると、働けなくなる。一緒に住んでいたりとか近くにおじいちゃん、おばあちゃんがいてるところはいいですけど、そうじゃなかったらやっぱりしんどい。仕事ができないになってくるやろうし、いろんなことで全然違ってくる。だから、さっきも言われていたように、鶴見区はせっかく子どもたちが増えてきているのに、どうなんやろう。

もう1つは、今言うように、団塊の世代をもっと利用しないといけないのではないかなと思うんです。いかにその人たちを巻き込んで、そこで保育、子育てサロンを毎日するじゃないですけど、預かる。そこにはやっぱり、病気になれば常駐の先生とかがいると思うんですよ。そこは、病院などと連携して、建物を建てるばかりじゃなしに、今あるところはいかに、その維持費も含めて。地域の経済も考えたら、そういうところを利用すればいいのではないかと。

ものを建ててくれと言ったら、なかなか。国全体がお金がないということだから。そんなのも含めて難しいと思うんですけど、地域の人、それである程度の年代の人、

たとえ1時間でも2時間でも行って、そこでワンコインでもいいですよ。それをまた使って、お昼とかランチを食べられたら地域のお店も繁栄するし、すごくいいと思うんですけどね。やっぱり全部がつながるようなことを考えていかないと、これから先、本当に、副区長が言われているように、今から取り組まないと多分無理やと思いますよね、いろんなこともね。

箱物を建てたからといって、さっきも言ったように、何年かした途端にだめになるというんじゃないし、ずっと使える拠点を地域はみんな持っているんですからね。そこをどういうふうに生かす、それがさっきみたいにこども食堂であったり、いろんなことも全部できると思うんですけどね。

○西岡部会長 よろしいでしょうか。

それでは、本日予定されている議題は終了いたしました。皆さんには、活発なご意見ありがとうございました。また今後も、活発な意見をいろいろいただいて、鶴見区をよいようにやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、前回までの部会で委員から出された意見について、事務局から提案があるようなので、お願いいたします。

○杉本地域活動支援課担当係長 前回、6月の当部会において、前川委員から若者の意見、例えば高校生の意見を聞くような場を持たないかというご意見、また真鍋委員からは同様の趣旨で、成人の日の記念の集いで、二十歳の誓いというテーマで新成人にスピーチをいただくんですが、そういう場に委員が出席して聞いていただくのはどうかというご意見をいただいております。

私どもでは、高校生会議については、前川委員ともお話しさせていただいて、12月ごろをめどに開催していく方法で進めたいと考えております。今後、具体的な日時、内容等が決定しましたら、委員の皆さんにご案内させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

また、成人の日の記念の集いは1月9日に午前10時から、区民センター大ホール

で開催いたしますが、来賓として各地域活動協議会の会長や各種団体の長などがご出席されます。あわせて、区政会議委員の皆さまのお席もご用意しようと考えております。成人式実行委員会にも既にお諮りしたところですので、時期が参りましたらご案内させていただきますので、ご出席いただければと考えております。以上です。

○西岡部会長　今の2つの議案ですが、高校生から意見を聞く会議の開催と、その会議への参加、また成人式への出席について、委員の皆様、いかがでしょうか。

○宮田委員　ありがとうございます。

○猿渡委員　すばらしい。

○西岡部会長　よろしいでしょうか。そうしましたら、参加については、時期が近づいたら事務局から文書で案内をすることですので、よろしく願いいたします。

委員の皆様、本日はまことにありがとうございました。

それでは、閉会にあたり、萩副区長から一言お願いしたいと思います。

○萩副区長　今日もお疲れさまでございました。今日は本当に活発なご議論をいただきまして、区役所も29年度に向けてご意見をできるだけ反映できるように頑張っておりますので、よろしく願いします。どうもありがとうございました。

○西岡部会長　ありがとうございました。最後に、区役所から事務連絡等ございましたら。

○日下保健福祉課担当係長　本当に、本日は多くの貴重な意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

次回、第3回部会でございますけれども、本日頂戴いたしました意見も参考に策定いたします29年度鶴見区運営方針素案について、ご意見を頂戴したいと考えております。11月初旬を予定しております。また、日程調整をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○西岡部会長　それではこれで、鶴見区区政会議第2回こども教育部会を閉会いた

します。どうも皆様方、ありがとうございました。

閉会 20時28分